

平成23年度 介護予防講座(さんさん講座)

～みんなで楽しみながら健康な体をつくりましょう～

問い合わせ・申し込み先 市役所高齢者支援課長寿福祉係 ☎(22)2111 (内線243)

①お菓子作り教室(全3回)

お菓子作りに興味のある方や、簡単でおいしいお菓子を作りたいという方、楽しくおいしいお菓子を作ってみませんか?
男女問わず歓迎です。

期 日 6月21日、7月5日、7月19日
(いずれも火曜日)
時 間 午後1時30分～4時
会 場 中野保健センター
講 師 高齢者支援課管理栄養士
対象者 65歳以上の方
定 員 15人
その他 1回につきおおむね500円の実費が必要です

③(正しい)歩き方教室(全3回)

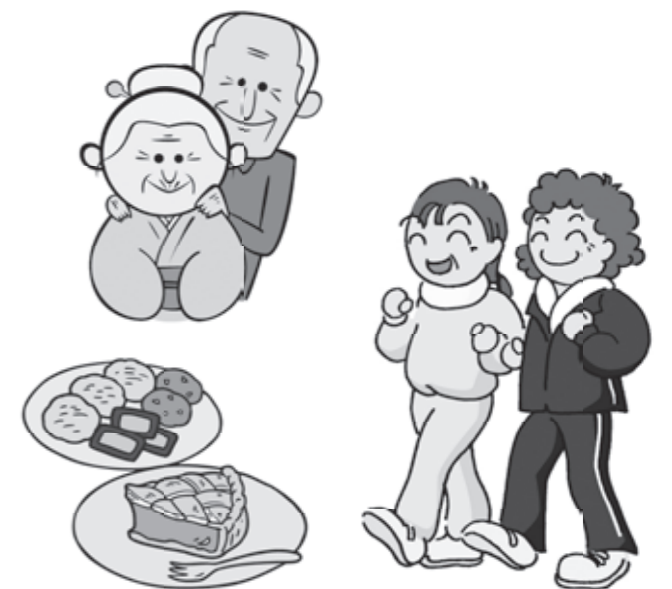
歩くことは日常的に良いのですが、悪い姿勢で毎日歩くと膝関節痛や、腰痛になる人が多くいます。
正しく歩いて、健康で若々しくなしましょう!

期 日 7月7日、7月14日、7月21日
(いずれも木曜日)
時 間 午前10時～11時30分
会 場 中野保健センター
講 師 ウォーキングアドバイザー
齋藤義人さん
対象者 65歳以上の方
定 員 15人
その他 タオル、水筒やペットボトル(水分補給用の飲み物)、運動靴、運動のできる服装でお越しください

②絵手紙を作ろう!(全4回)

絵手紙を描きませんか?
楽しく絵手紙を習います。誰でも簡単に取組めます。お友達やご家族に絵手紙を出しませんか。すてきに楽しく絵手紙を描きましょう!

期 日 6月8日、6月15日、6月22日、6月29日(いずれも水曜日)
時 間 午前10時～正午
会 場 さんさん館
講 師 市川典子さん
対象者 65歳以上の方
定 員 15人
持ち物 初めの方は、初回は道具を一式お貸しします。経験者は自分の道具を一式お持ちください
その他 はがき代として100円の実費が必要です



教育委員会だより

No.50 編集/中野市教育委員会

教育を拓く知恵

～中間教室で意欲的に学ぶ子どもたち～

今、学校ではたくさんの方々の支援によって、さまざまな課題を解決し、教育活動の充実を目指しています。今月号では、学校に行きたくとも行けない子どもたちを支援する中間教室の目的や日課、学習内容や子どもたちの姿について紹介します。



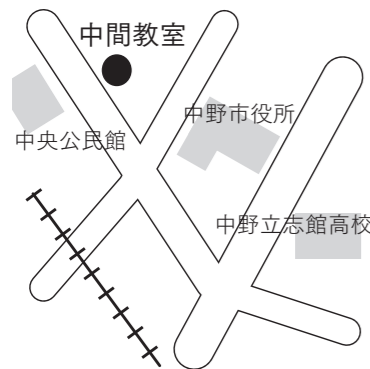
▲県主催の特別講座に参加

○中間教室とは

いろいろな事情で学校へ行けない小・中学生が通学できるように準備された教室です。市内には、一つの中間教室があり、平成22年度は8人の中学生が通い、このうち女子3人は高校へ進学し、男子2人と女子1人は学校へ復帰しました。現在は、2人の生徒が学んでいます。

○中間教室の願い

中間教室の一日の生活を通して、「今日はこんな事が楽しかった。」というような心の充実感を持ってほしい。また、一日の終わりに、「こんな事ができるようになった。」というような学習の達成感を持ってほしい。このように中間教室の生活と学習によって、「明日も、必ず出席したい」「友達と一緒に過ごしたい」という前向きな気持ちを持続できるように願っています。



「こんな事ができるようになった。」というような学習の達成感を持ってほしい。このように中間教室の生活と学習によって、「明日も、必ず出席したい」「友達と一緒に過ごしたい」という前向きな気持ちを持続できるように願っています。

日課と学習内容

9:00～12:00 午前の部
12:00～12:50 昼食
12:50～15:00 午後の部
15:10 下校
小学生:国語・算数・理科
中学生:国語・数学・社会
理科・英語

中間教室に通う中学生は、全員が高校進学を希望しています。そこで、楽しい生活だけでなく、自分の進路が実現できるための確かな学力が身に付くような学習を工夫しています。また、「これをしなさい。」というような指示的な言葉がけではなく、本人のやる気を大切にした活動を計画的に仕組んでいます。

保健室から見た子どもたち 保健室から①

保健室にはさまざまな子どもたちが来ます。けがをしたり、具合の悪い子はもちろんのこと、ただ話をしに来たり、何となく来たりします。以前中学校に勤務したころ、生徒がよく「保健室に来るとほっとする。」と言っていました。今は小学生でも、「ここに来るとほっとする。」という声を耳にします。

子どもたちは、ほっとできる居場所を求めているのだと感じます。ほっとできる安心感、自分が生き生きと活動できる場、心を通わす友達が存在するとき、子どもたちは安定し、元気に学校生活を送ることができるのではないかと思います。

子どもは、自分の思いをすぐに言葉に出して話すことは難しいこともあります。子どもたちの心が安心、安定して過ごせるように、忙しく流れていく時間の中で、時には家族でゆっくりと話してみると、新しい発見があるのではないのでしょうか。
A小学校 養護教諭

心を開く子どもたち
ほとんどの生徒は月に一度か全然休まないで通学しています。生徒は「中間教室は楽しい。」と言いますが、教室に入るまでは勇気と強い決意が必要です。入ってしまったら、誰もが変わります。例えば、N君は長い間、自分の部屋に閉じこもり、家族とも口を聞きませんでした。中間教室に通うようになり、食欲も回復しました。

中間教室は、N君にとってほっとできる居場所となり、そこでの生活と学習により少しずつ心が開放され、家庭生活も大きく変化しました。このような変化は中間教室に通う児童・生徒の共通点の一つです。
中間教室は、いつでも参観できますのでお気軽に相談ください。
問い合わせ先 中野市中間教室 金井憲司 ☎(23)5260